

| | | | | | | | | | | | |
|---|--|-----|-----|--------|------|----------------|---|------|------|-----|--|
| 科目ナンバリング | | | | | | | | | | | |
| 授業科目名 <英訳> | 日本語・日本文化研究論文作成演習 Independent Research in Japanese Language and Culture I | | | | | 担当者所属 職名・氏名 | 国際高等教育院 教授 パリハワダ ナルチラ 国際高等教育院 准教授 湯川 志貴子 国際高等教育院 教授 河合 淳子 | | | | |
| 群 | 人文・社会科学科目群 | | | 分野(分類) | 日本理解 | | | 使用言語 | 日本語 | | |
| 旧群 | A群 | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | 演習（対面授業科目） | | | | |
| 開講年度・ 開講期 | 2024・後期 | | 曜時限 | 月3 | | 配当学年 | 1 回生 | | 対象学生 | 留学生 | |
| 【授業の概要・目的】 | | | | | | | | | | | |
| 各学生の興味・関心に基づいて日本語・日本文化に関する研究テーマを選定し、一年間の研修期間を通してそのテーマについて探究し、最終的に修了研究論文としてまとめ上げる。 本授業では、日本をテーマにした論文を作成するために必要な資料の収集や扱い方を指導し、論文作成の方法を個別に指導していく。 | | | | | | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | | | | | | |
| 各自のテーマに沿って文献調査やフィールドワークなどを行い、修了論文を作成し、提出すること | | | | | | | | | | | |
| 【授業計画と内容】 | | | | | | | | | | | |
| 第Ⅰ期（10月～2月）は、全員に対してテーマの見つけ方、論文の書き方などの指導を行なう一方で、個別に面談しながらどのような興味を持っているかを話し合う。テーマが明確になった学生から、実際の論文指導に入る。第Ⅰ期の終了時期に、論文構想発表会を行なう。 ＜参考＞ 第Ⅱ期（4月～7月）は、前期で選定したテーマをもとに、論文の構成を考え、実際に文章化していく作業にあてる。この期の指導は原則として個別に行なう。7月下旬までに第一稿を提出する。 5月下旬に論文中間発表会を、7月下旬に修了論文最終発表会を行なう。 発表会および論文の提出に関する日程の詳細は、各学期のはじめに指示する。 各学生のテーマを基にクラス分けを行う。 | | | | | | | | | | | |
| 【履修要件】 | | | | | | | | | | | |
| 日本語・日本文化研修留学生専用科目 | | | | | | | | | | | |
| 【成績評価の方法・観点】 | | | | | | | | | | | |
| 以下の通りに評価する。 | | | | | | | | | | | |
| 日本語・日本文化研修論文作成演習Ⅰ 授業活動への参加度合：50％ 論文構想発表：50％ ＜参考＞ 日本語・日本文化研修論文作成演習Ⅱ 授業活動への参加度合：30％ 中間発表：30％ 修了論文最終発表：40％ | | | | | | | | | | | |
| なお、演習科目であるため参加度合を重視する。 | | | | | | | | | | | |
| ----- 日本語・日本文化研究論文作成演習 (2)へ続く ----- | | | | | | | | | | | |

日本語・日本文化研究論文作成演習 (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各学生には論文作成スケジュールに沿って、選定した研究テーマに関わる文献調査や実態調査、分析、考察などを行うことが求められている。各週その進捗状況を報告し、論文作成を段階的に進めていく。

[その他(オフィスアワー等)]